

小学校図画工作科における市販教材の 有用性に関する一考察

A Study of The Usefulness of Teaching Materials in an Arts and Crafts Course

塚本 敏浩

Toshihiro Tsukamoto

I. 問題の所在と研究の目的

教育は、その理念や目標の達成のために、教師がどのような内容を、いかなる方法で児童生徒に取り組みせるか、教材を媒介として実践する営みであるといえよう。そういった意味でも、小学校の教育活動において、教師が教材研究を行い、教材が授業構築に果たす役割は非常に大きいといえる。その中でも『『教材づくり』という言葉がよく使われるように、図画工作科の学習では、既に定まった教材内容があるわけではなく、児童・生徒の実態や教師のねらいに応じて自在に教材を選択することが通常であるし、(中略)教材の選択や授業展開の方法について柔軟に対応できるようになっている。』¹⁾ それにもかかわらず、筆者のこれまでの教育現場での経験や予備調査によれば、図画工作科の授業づくりにおいて、材料や素材が製作の目的に合わせてパッケージされ、市販されている、所謂セット教材(以下「市販教材」【図1】²⁾ 参照)を使用する教師が多く見られる現実がある。

辻(2012)が「セット教材では、完成作品のイメージはもちやすいが、発想力を培い個性的な表現をするという造形教育のねらいに合致しているとはいえない」³⁾。と述べているように、図画工作・美術教育の専門家・研究者は、材料をセット化し、製作の手順を示した市販教材を教育現場で使用することに對して、多くの場合その有用性に消極的な姿勢が見受けられる。では、なぜ教師は図画工作科の授業づくりを市販教材に頼ってしまうのか。そして、実際の教育現場では、教師はどのくらいの頻度・割合で授業づくりを市販教材に依存しているのか。また、市販教材にはいかなる効果も認められないのか。

以上の見地から、本研究では、公立小学校図画工作科の授業における市販教材の使用実態を教育課程に設定された題材に基づいて各学年ごとに調査を行い、題材・領域構成の視点から整理し、運用の実態や現場の教師の声から市販教材の有用性について考察することを目的とする。



【図1】市販教材の一例²⁾

II. 研究の方法

研究にあたり、市販教材と学校現場での使用実態に焦点化した先行研究について調査したところ、安東(1998)⁴⁾、長南・中村(1999)⁵⁾の2編の研究報告が見られた。しかし、いずれも中学校技術科における市販教材を対象にした製品分析や品質改善に関する研究であり、教育現場の実態調査という点では参考になるものの、本研究とは主旨の異なるものであった。特に、図画工作科の市販教材については、本格的な調査・研究がなされていないのが実態である。そこで、本研究では、図画工作科の市販教材の有用性解明に先立つ基礎研究調査の一つとして、公立小学校現場における使用実態についてアンケート調査を実施することにした。

本調査を行うことは、学年の違いや教育課程における題材の使用実態を明らかにし、教師の声に耳を傾けることで、市販教材だけでなく図画工作科を取り巻く「教材」そのものの在り方を展望する足がかりとなるのではないかと考えた。なお、本研究では、学校制度上の慣例・慣習の影響を受けにくい比較的小規模な教育行政地区を対象にして、調査を行うことにした。⁶⁾

1. 調査方法

愛知県尾張地方、尾張教育事務所管内A地区5市1町60校の小学校第1～6学年を対象に、直接配付・郵送回答で調査（6学年×60校＝合計360調査）を行った。調査に先立ち、それぞれの管轄市町の各教育委員会へ調査内容の説明と実施への協力依頼を行った。調査の回答者は、各学校に一任したが、主に平成27年度の各学年の図画工作科の授業担当教員、または学年主任を代表とする学年担当教員、教務主任のいずれかが望ましい旨を配付時に説明した。

その結果、1学年21回答（回収率35%）、2学年20回答（同33.3%）、3学年19回答（同31.6%）、4学年20回答（同33.3%）、5学年20回答（同33.3%）、6学年18回答（同30%）の計23校118回答（回収率32.7%）が得られた。

2. 調査実施時期

調査は2016年7月下旬から9月下旬の期間に実施した。7月上旬から8月上旬にかけて、管轄市町の各教育委員会を窓口として各学校に直接配付し、9月末日までに返送するよう依頼した。

3. 調査項目

調査票（【図2・3】参照）は、A地区が使用している教育課程に準拠した題材を配列し、〔質問①〕各題材の実施の実態〔題材の実施率〕、〔質問②〕市販教材の使用の実態〔市販教材による実施率〕、〔質問③〕市販教材を使用したことによる教員の主観的効果の有無〔効果率・非効果率〕、〔質問④〕質問②回答以外の題材への市販教材使用の期待値、〔質問⑤〕市販教材使用に係る費用、〔質問⑥〕質問⑤の個人（家庭）負担額、〔質問⑦〕市販教材使用のメリット（自由記述）、〔質問⑧〕市販教材使用のデメリット（自由記述）、〔質問⑨〕市販教材に期待すること（自由記述）、〔質問⑩〕図画工作における教育現場の問題点（自由記述）で構成した。

【小学校 6 学年用】

〔質問①～④〕は下記の表の中に○を、質問⑤～⑩はそれぞれの回答欄にご記入をお願いします。

〔質問①〕昨年度（平成27年度）に実践を行った題材すべてに○を付けてください。

〔質問②〕題材の実践にあたり、市販教材を使用した題材に○を付けてください。

〔質問③〕質問②で○を付けた題材について、市販教材を使用したことで教育効果が上がったと思われる題材に○を、教育効果が上がらなかったと思われる題材に×を付けてください。

〔質問④〕昨年度実践を行ったが、質問②で○を付けた題材について、市販教材を使えばよかった、（使った方が教育効果が上がったであろう）と思われる題材に○を付けてください。

題材名	領域	質問①	質問②	質問③	質問④
1 オリエンテーション ・ 色を合せて ・ 形や色を楽しもう	造形				
2 身近な環境で 《自然とともに》 《いろいろな材料で》	造形				
3 わたしの小さな部屋	立				
4 表し方を工夫して	造形				
5 どんな動きをするのかな 《はり圭のクランクで》 《カムを使って》	工				
6 表現にこだわりたい	造形				
7 暑から感じる形や色	造形				
8 光のハーモニー 《カラフルボトル》 《ファンタジーワールド》	造形				
9 板から何が	工				
10 想像のつばさを広げて	造形				
11 動く、描く、書く 《紙バンドで》《毛糸で》	工				
12 12年間のわたし	立				
13 旅を生かして	造形				
14 味わってみよう、日本の美術	造形				

※ 本アンケートでは、愛知県教育課程に準じて題材を掲載しています。

【図2】調査票1（6年生用）

〔質問⑤〕1年間を通して、市販教材購入に費やした金額の概算に○を付けてください。

ア：0円～199円	イ：200円～399円	ウ：400円～599円	エ：600円～799円
オ：800円～999円	カ：1000円～1199円	キ：1200円～1399円	ク：1400円以上

〔質問⑥〕質問⑤でお答えした金額のうち、学校収収金で個人負担とした金額をお答え下さい。

ア：金額	イ：0円～499円	ウ：500円～999円	エ：1000円～1499円	オ：1500円以上
------	-----------	-------------	---------------	-----------

〔質問⑦〕図画工作の授業をおこなうにあたって、市販教材を使うことで生じるメリット（長所）はどのようなことだとお考えですか。自由にお書きください。

〔質問⑧〕図画工作の授業をおこなうにあたって、市販教材を使うことで生じるデメリット（短所）はどのようなことだとお考えですか。自由にお書きください。

〔質問⑨〕今後、図画工作の授業をおこなうにあたって、市販教材に求めることはどのようなことだとお考えですか。自由にお書きください。

〔質問⑩〕図画工作全般に関して、学校現場で抱えている問題はどのようなことだとお考えですか。自由にお書きください。

お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

【図3】調査票2（全学年共通）

Ⅲ. 調査結果と考察

実施した調査の結果について、質問①～⑥では、市販教材使用の実態を学年・教育課程の題材・領域構成の視点から整理し、考察した。質問⑦～⑩（自由記述）では、各教師の回答記述を要約せずに原文のまま、テキストマイニング⁷⁾の手法で処理し、考察した。

1. 〔質問①〕各題材の実施の実態

市販教材と題材との関係を捉えるために、各学年の題材実施の状況について調査した。

A地区5市1町の小学校では、一定の教育行政区を単位としたまとまりで一つの教育課程案を現場の教職員が集結して作成している。その教育課程案には「学校の教育課程は、学校教育の目的や目標を達成するために、児童の能力や適性を踏まえて教育内容を選択し、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。」⁸⁾と記されている。また、「各学校は、関係法令、学習指導要領に基づいて教育課程を編成・実施しなければならない。」⁹⁾と記載されているように、本来ならばその案を基にして、各学校で具体的な指導計画を作成するのが、法令に基づいた姿である。しかし、多忙化する教育現場では、どの学校も教育課程案通りの題材配列に実質的に手を加えず、そのまま実施しているのが現実である。つまり、〔質問①〕の結果において、各学校で独自の教育計画を作成している場合を除いて、どの学年も調査に提示された題材を全て実施していなければならないはずである。（ただし、教育課程の実施においては、地域や学校の実態・児童の発達段階に応じて弾力的に扱ってもよい、と認められていることから、指導計画を作成した上で、提示題材以外の独自題材に取り組んでいることは考えられるが。）

以上のことを前提に〔質問①〕の結果を見ると、1～6年生を通して題材の実施率にある一定の傾向が見受けられることが分かった（【表1】参照）。それは、学年が上がるにつれ、題材全体の実施率が低下していくことである。【表1】の各学年の60%以上の実施率にマーキングしたところ、1年生では全20題材中20全ての題材で60%以上の実施率に達していることが分かる。ところが、学年が上がるに従い60%以上の実施率に達した題材の割合が低下し、2年生で全16題材中12題材（75%）、3年生で全22題材中13題材（59%）、4年生で全17題材中9題材（52.9%）、5年生で全14題材中6題材（42.9%）6年生で全14題材

中6題材（42.9%）となっている。また、個々の題材に着目すると、例えば、1年生で実施率が最も低い題材「0 みつけたもの」「10 いっしょにおさんぽ」「13 どんどんならべて」が61.9%の実施率であるのに対して、6年生では、実施率の最も低い題材「2 身近な環境」は11.1%である。一番下位の題材実施率を比較してみても、高学年における題材実施率はかなり低く、大きな偏りがあることが明らかといえる。一般的に考えても、11.1%の題材実施率というのは、10校に1校程度の頻度でしかこの題材を実施していないことを示しており、教育課程の適切な実施という点からは問題があろう。また、実施率の高低と領域の相関性を見た場合、高学年になるに従って、「造形遊び」領域の題材が全般的に実施率が低いことが分かる。このことは、図画工作科教育研究の分野で以前から危惧されている、高学年における「造形遊び」領域実施の困難さ¹⁰⁾を題材実施の観点から見ても、課題として浮き彫りにした結果といえる。低学年では、領域による実施率の偏りは特に見られず、「造形遊び」領域の題材に関しても、一定の実施率が認められる。本来、幼児教育における表現領域の活動は、遊びの要素から派生する造形活動が多い。遊び中心の幼児造形と小学校における図画工作科の「造形遊び」領域が、題材としてスムーズに接続されてきている成果として評価できる。その他、題材実施率の問題は、図画工作科の指導時間数減少、教員の力量・経験不足など、様々な要因が考えられるが、本稿では敢えて「市販教材」との関係にのみ着目した。

次項では、〔質問②〕の調査結果から、市販教材の使用の実態と題材実施の関連性について考察する。

2. 〔質問②〕市販教材の使用の実態

〔質問①〕の結果と市販教材の使用の実態の関係を見取るために、〔質問①〕の実施率60%以上の題材と〔質問②〕の市販教材による実施率60%以上の題材に着目した。さらに、題材の実施率が比較的高く、且つ市販教材使用の実施率が低い領域を抽出したところ、その領域は「絵」「鑑賞」であることが分かった。そして、【表1】の結果から「絵」「鑑賞」の領域を別途抜き出して、配列したものが【表2】である。（表中の各学年の【a】は「絵」「鑑賞」の抜き出しであり、【b】は「立体」「工作」「造形遊び」「絵版（＝版画）」領域である。）【表2】のどの学年においても、題材の実施率が非常に高い割に、市販教材の使用実態が見られない（市販教材への依存性が低い）のは「絵」「鑑

小学校図画工作科における市販教材の有用性に関する一考察

【表 1】〔質問①〕の結果のまとめ

1年生				2年生				3年生			
題材名	領域	質問①		題材名	領域	質問①		題材名	領域	質問①	
		回答数	実施率			回答数	実施率			回答数	実施率
0 みんなの えがお	絵	20	95.2%	1 続ったことを ぬたやいろを たのしむ	鑑	16	80.0%	1 おつまみ！ まいりょう ぬたやいろを 楽しむ	鑑	13	68.4%
0 すなやつちなかいし	造	14	66.7%	2 見つけたよ！ もかんじ	絵	17	85.0%	2 色・形・い・ゆ・んじ	絵	18	94.7%
0 みつけた もの	絵	13	61.9%	3 はしをかいて	工	20	100.0%	3 ハッピー・小もの入れ	工	18	94.7%
0 ねんどで あそぼう	造	19	90.5%	4 大きな かみで	造	13	65.0%	4 切ってつないで大へんしん	造	9	47.4%
0 どんどん かくのほたのいぬ	絵	19	90.5%	5 ねん土を キュッポン	立	19	95.0%	5 まほうのとびらをあけると	絵	17	89.5%
1 どんどん かくのほたのいぬ	絵	19	90.5%	6 たのしいこと見つけた	絵	16	80.0%	6 切ってかき出してくっつけて	立	15	78.9%
2 チョキチョキ かざり	工	21	100.0%	7 どろひつさんの おうち	立	13	65.0%	7 ふんわりふわふわ	工	15	78.9%
3 ひもむね ねんど	立	18	85.7%	8 ひかりの プレゼント	造	19	95.0%	8 これにえがいたら	絵	5	26.3%
4 おっててたら	工	20	95.2%	9 大きな たからもの	鑑	8	40.0%	9 いっもの場所	造	7	36.8%
5 ごちそう パーティを はじめよう！	立	18	85.7%	10 まどを ひらいて	立	20	100.0%	10 クリスタルファンタジー	立	13	68.4%
6 いらいらな かたの かみから	絵	17	81.0%	11 みんなのおうち	絵	7	35.0%	11 ドントンドボンズきうち名人	工	19	100.0%
7 いらいらな はから	造	19	90.5%	12 つって あそぼう	工	9	45.0%	12 サクサク刀名人	工	13	68.4%
8 はこ かざらん	工	20	95.2%	13 うつてみると	版	20	100.0%	13 ここが知こり	鑑	9	47.4%
9 やむいた かたから うまれたよ	絵	15	71.4%	14 つないで どんどん	造	9	45.0%	14 大きなものがたり	絵	17	89.5%
10 いっしょに おさんぽ	立	13	61.9%	15 ストロー ピョコタ	工	19	95.0%	15 ひもむねワールド	造	6	31.6%
11 でこまに はっけん	鑑	14	66.7%	16 おはなし 大すぎ	絵	17	85.0%	16 立ち上がった絵の世界	絵	8	42.1%
12 クルクル まわして	工	19	90.5%			12/16	(75%)実施	17 コムの力	工	15	78.9%
13 どんどん ならべて	造	13	61.9%					18 いらいらうして	絵版	14	73.7%
14 みて みて おはなし	絵	19	90.5%					19 ねん土でマイタウン	立	11	57.9%
15 コロコロ ベッたん シャカシャカ	造	15	71.4%					20 うれしかったあの日もち	絵	12	63.2%
16 のって みたいな いきたいな	絵	18	85.7%					21 クマクマックス	造	8	42.1%
17 なかか でくるかな	工	19	90.5%					22 カラフルランド	立	6	31.6%
18 はこで つくったよ	立	15	71.4%							13/22	(59%)実施
19 せんせい あね	絵	17	81.0%								
20 コロコロ ゆらりん	工	20	95.2%								
		20/20	(100%)実施								
4年生				5年生				6年生			
題材名	領域	質問①		題材名	領域	質問①		題材名	領域	質問①	
		回答数	実施率			回答数	実施率			回答数	実施率
1 ちいさいあめとで・形や色を楽しむ	鑑	17	85.0%	1 不思議な世界・形や色を楽しむ	鑑	14	66.7%	1 伝え合って・形や色を楽しむ	鑑	13	72.2%
2 すてきなペーパーショップ	絵	17	85.0%	2 心のよう	絵	13	61.9%	2 身近な環境で	造	2	11.1%
3 ぬのでかざろう	造	3	15.0%	3 あんなところで こんなところで	造	8	38.1%	3 わたしの小さな部屋	立	5	27.8%
4 ねんどの心から	立	15	75.0%	4 じっと見つめてみると	絵	12	57.1%	4 表し方をくふうして	絵	15	83.3%
5 コロコガール	工	20	100.0%	5 心の形	立	16	76.2%	5 どんな動きをするかな	工	15	83.3%
6 ぬのにえがいたら	絵	2	10.0%	6 伝え合いたい思いや気持ち	工	9	42.9%	6 表現にこめた思い	鑑	6	33.3%
7 切って切って木の世界	工	19	95.0%	7 光のハーモニー	造	8	38.1%	7 里から感じる形や色	絵	11	61.1%
8 つないでいくと	造	3	15.0%	8 糸のこスライ	立	20	95.2%	8 光のハーモニー	造	7	38.9%
9 どき出すメッセージ	工	18	90.0%	9 カードを使って	鑑	6	28.6%	9 板か何かが	工	16	88.9%
10 紙と水のまほう	立	4	20.0%	10 物語から広がる世界	絵	13	61.9%	10 想像のつばさをかいて	絵	10	55.6%
11 ここには、きこえるよ	鑑	11	55.0%	11 立ち上がり！ マイライン	立	8	38.1%	11 織る・編む・縫む	工	6	33.3%
12 心にとったそのとき	絵	19	95.0%	12 静かなで表そう	絵版	18	85.7%	12 12年後のわたし	立	7	38.9%
13 いっもの場所がへんしん	造	2	10.0%	13 コマコマアニメーション	工	9	42.9%	13 旅をきかして	絵版	18	100.0%
14 べんりなマイボックス	工	17	85.0%	14 何かがいっているかな？	鑑	5	23.8%	14 味わってみよう、日本の美術	鑑	7	38.9%
15 ほってすって	絵版	20	100.0%			6/14	(42.9%)実施			6/14	(42.9%)実施
16 絵と言葉で表そう	絵	7	35.0%								
17 それに行けたんげんたい	立	2	10.0%								
		9/17	(52.9%)実施								

【表2】〔質問①～④〕の調査結果を題材・領域別に配列したもの

表の見方

題材名	領域 絵…絵に表す 立…立体に表す 工…工作 造…造形遊び 鑑…鑑賞	質問①		質問②		質問③【効果あり】		質問④【効果なし】		質問⑤
		〔回答数〕	〔実施率〕 実回答数 ÷ 全回答数	〔回答数〕	〔実施率〕 実回答数 ÷ 質問②の回 答数	〔回答数〕	〔効果率〕 実回答数 ÷ 質問③の回答数	〔回答数〕	〔非効果率〕 実回答数 ÷ 質問④の回答数	

1年生(a)										
題材名	領域	質問①		質問②		質問③【効果あり】		質問③【効果なし】		質問④
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
0 みんなの えがき	絵	20	95.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
0 あつた もの	絵	13	61.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
0 どんどん かのは たのしいな	絵	19	90.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
1 どんどん かのは たのしいな	絵	19	90.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
6 いりなな かたの かみから	絵	17	81.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
9 やみだ かなから ちねたよ	絵	15	71.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
14 みて みて おはなし	絵	19	90.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
16 のって みないな いきないな	絵	18	85.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
18 せんせい あなは	絵	17	81.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
11 でいば はっけん	鑑	14	66.7%	7	50.0%	6	85.7%	1	14.3%	0
1年生(b)										
2 チョキチキ かきり	工	21	100.0%	2	9.5%	2	100.0%	0	0.0%	1
4 あって 来てた	工	20	95.2%	4	20.0%	4	100.0%	0	0.0%	0
18 はこ かきまん	工	20	95.2%	2	10.0%	2	100.0%	0	0.0%	0
20 ココロ ゆらん	工	20	95.2%	11	55.0%	10	90.9%	1	9.1%	1
12 クルクル まわて	工	19	90.5%	7	36.8%	7	100.0%	0	0.0%	0
17 なかに でてくるかな	工	19	90.5%	13	68.4%	13	100.0%	0	0.0%	1
0 なんだで あそぼう	造	19	90.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
7 いりなな はこから	造	19	90.5%	1	5.3%	0	0.0%	1	100.0%	0
3 ひもむねん	立	18	85.7%	2	11.1%	2	100.0%	0	0.0%	0
6 ごちそう パーティき はじめよう!	立	18	85.7%	10	55.6%	10	100.0%	0	0.0%	0
15 ココロ ベッタン シヤパヤカ	立	15	71.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
18 はこで つくたよ	立	15	71.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
0 すなやづちとなかよし	造	14	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
18 どんどん ならべて	造	13	61.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
10 いっしょに おさんぽ	立	13	61.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0

2年生(a)										
題材名	領域	質問①		質問②		質問③【効果あり】		質問③【効果なし】		質問④
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
2 見つけたよ いかん	絵	17	85.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
6 たのしいこと 見つけた	絵	16	80.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
11 みんなのおうち	絵	7	35.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
16 おはなし 大ずき	絵	17	85.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
1 あつたことを おかきいすえん	鑑	16	80.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
9 大ずきな たからもの	鑑	8	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
2年生(b)										
3 ぼうしをかぶって	工	20	100.0%	14	70.0%	13	82.8%	0	0.0%	1
18 うつて みると	鑑	20	100.0%	11	55.0%	11	100.0%	0	0.0%	0
10 まどをひいて	立	20	100.0%	15	75.0%	13	65.7%	1	6.7%	0
15 ストロークコピタ	工	19	95.0%	13	68.4%	12	82.3%	1	7.7%	0
8 ひかりの ふせと	造	19	95.0%	18	94.7%	16	88.9%	0	0.0%	0
5 ねん土をチョップ	立	19	95.0%	4	21.1%	4	100.0%	0	0.0%	0
4 大きなかみで	造	13	65.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
7 どうぶつさんの おうち	立	13	65.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
12 ついて あそぼう	工	9	45.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
14 ついて どんどん	造	9	45.0%	1	11.1%	1	100.0%	0	0.0%	0
3年生(a)										
題材名	領域	質問①		質問②		質問③【効果あり】		質問③【効果なし】		質問④
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
2 色・形・いりかた	絵	18	94.7%	1	5.6%	1	100.0%	0	0.0%	0
5 まほうとうとみあけると	絵	17	89.5%	4	23.5%	3	75.0%	0	0.0%	0
6 こけにえがいの	絵	5	26.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
14 大きなむかしがたり	絵	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
16 立ち上がった絵の世界	絵	8	42.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
20 げんじのあそびもの	絵	12	63.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
1 あつた・いりかた・形・色をまねよう	鑑	13	68.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
18 こがねに入り	鑑	9	47.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
3年生(b)										
11 ドン・ドン・ゴキウちん人	工	19	100.0%	17	89.5%	17	100.0%	0	0.0%	0
7 ふんわりふんわり	工	15	78.9%	4	26.7%	3	75.0%	0	0.0%	0
17 ゴムの力	工	15	78.9%	7	46.7%	7	100.0%	0	0.0%	0
6 切ってかき出してくっつけて	立	15	78.9%	4	26.7%	3	75.0%	0	0.0%	0
18 いりかたうして	絵	14	73.7%	7	50.0%	5	71.4%	0	0.0%	0
12 サクサク刀	工	13	68.4%	9	69.2%	9	100.0%	0	0.0%	0
10 クリスクルファンタジー	立	13	68.4%	10	76.9%	7	70.0%	1	10.0%	0
19 なんでもマダダ	立	11	57.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
4 切ってついでにへんじん	造	9	47.4%	4	44.4%	2	50.0%	0	0.0%	0
21 クススス	造	8	42.1%	1	12.5%	1	100.0%	0	0.0%	0
9 いづもの場所	造	7	36.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
15 ひももワールド	造	6	31.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
22 カラフルランド	立	6	31.6%	1	16.7%	1	100.0%	0	0.0%	0

4年生(a)										
題材名	領域	質問①		質問②		質問③【効果あり】		質問③【効果なし】		質問④
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
2 すてきなペーパーショップ	絵	17	85.0%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0
6 絵のえがきで	絵	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
12 心にのこったものを	絵	19	95.0%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	0
16 絵と音楽で表そう	絵	7	35.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
1 絵のえがきで 形や色をまねよう	鑑	17	85.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
11 こけにえ、まねてみよう	鑑	11	55.0%	5	45.5%	4	80.0%	0	0.0%	0
4年生(b)										
15 ぼてぼて	絵	20	100.0%	13	65.0%	11	84.6%	0	0.0%	0
7 切って切って木の葉	工	19	95.0%	16	84.7%	13	72.2%	0	0.0%	0
9 とびだすメルセージ	工	18	90.0%	9	50.0%	7	77.8%	1	11.1%	0
14 ベルメイルマイボクス	立	17	85.0%	13	76.5%	10	76.9%	0	0.0%	0
4 ねん土のひも	立	15	75.0%	6	40.0%	5	83.3%	0	0.0%	0
10 絵のえがきで	立	4	20.0%	3	75.0%	0	0.0%	1	33.3%	0
8 絵のえがきで	造	3	15.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0
6 づいていって	造	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
18 いづもの場所がへんじん	造	2	10.0%	1	50.0%	1	100.0%	0	0.0%	0
17 それ行けたんげんない	立	2	10.0%	2	100.0%	2	100.0%	0	0.0%	0

5年生(a)										
題材名	領域	質問①		質問②		質問③【効果あり】		質問③【効果なし】		質問④
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
2 えのえがき	絵	13	61.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
4 じつとつてみると	絵	12	57.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
10 物語から広がる世界	絵	13	61.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
1 不思議な世界・形や色をまねよう	鑑	14	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
9 カートをばう	鑑	6	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
14 何かにいっているかな?	鑑	5	23.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
5年生(b)										
8 糸のこすい	立	20	95.2%	16	80.0%	14	73.7%	0	0.0%	0
12 影をなぞって表そう	絵	19	85.7%	12	66.7%	8	66.7%	0	0.0%	0
5 えのの形	立	16	76.2%	7	43.8%	4	57.1%	0	0.0%	0
13 ココロアニメーション	工	9	42.9%	5	55.6%	5	100.0%	0	0.0%	0
3 あんなにとろで こんなにとろで	造	8	38.1%	3	37.5%	3	100.0%	0	0.0%	0
7 光のハート	造	8	38.1%	6	75.0%	3	50.0%	0	0.0%	0
11 立ち上がり! マイライ	立	8	38.1%	7	87.5%	5	71.4%	0	0.0%	0

6年生(a)										
題材名	領域	質問①		質問②		質問③【効果あり】		質問③【効果なし】		質問④
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
4 美しい方へうして	絵	15	83.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
7 草花のいろは	絵	11	61.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
10 物語のつづきをかいて	絵	10	55.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
6 表現にめい	鑑	6	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
14 ねわってみよう、日本の美術	鑑	7	38.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
1 伝えきつて 形や色をまねよう	鑑	13	72.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
6年生(b)										
18 紙をかいて	絵	18	100.0%	13	72.2%	10	76.9%	0	0.0%	0
5 どんな動きをするのかな	立	15	83.3%	15	100.0%	11	73.3%	2	13.3%	0
8 光のハート	立	7	38.9%	6	85.7%	5	83.3%	0	0.0%	0
12 12年後のわたし	立	7	38.9%	6	85.7%	5	83.3%	0	0.0%	0
11 藤、楓、桜、	立	6	33.3%	5	83.3%	4	80.0%	0	0.0%	0
3 わたしの小さな部屋	立	5	27.8%	4	80.0%	3	75.0%	0	0.0%	0
2 身近な環境で	造	2	11.1%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0

賞」の領域であることが読み取れる。また反対に、「立体」「工作」「絵版（＝版画）」は市販教材の使用実態（使用実施率）が高い（市販教材への依存性が高い）ことが読み取れる。

以上の結果から、現場の教師は、図画工作科の基本領域と言える「絵」「鑑賞」に関しては、あまり市販教材に依存せず、教師の経験や力量によって授業づくりに取り組むことができているということが推察される。元来、「絵」「鑑賞」領域の市販教材には、販売されている種類やバリエーションが少ないということも一つの理由であると考えられるが、少ないながらも内容・構成が工夫された市販教材がいくつか製作され、販売されていることから、教師の需要自体があまりないということが推察できる。特に「絵」領域では、教師が事前に準備すべき材料は、紙などの支持体（基底材）だけで済み、あとは鉛筆・パス・絵の具など、子ども個人が所有する描画材のみで授業が進められることも一つの要因であろう。その反面、「立体」「工作」「絵版（＝版画）」領域では、「絵」「鑑賞」の題材に比べて、授業づくりにおいて、必要となる材料の準備が非常に難しいために教師が市販教材に依存せざるを得ないと考えられる。後述の項目6.「質問⑦⑧」の自由記述による調査結果の考察においても触れるが、子ども個人が事前に題材に沿った材料の準備をすることは、図画工作科の授業づくりにおいて非常に重要な行為であるにもかかわらず、同時に教師にとっては大きな負担になっていることがこの結果に影響していると考えられる。個々の子どもの思いや願いに沿った材料準備を子ども自身に行わせることが授業の導入として捉えられる題材は多いが、現実的には、子どもたちの家庭環境の問題から、教育課程通りの材料を用意・準備することができないことが多く、特に「立体」「工作」「絵版（＝版画）」領域では、市販教材に頼らざるを得ないことが教育現場の実態としてこの結果から明らかになっている。

さらに、別の視点から「質問②」の結果を見ると、現場の教師は、年間全体の教育計画を立てる時に、授業で扱う題材の決定を、「手軽に効率よく実施するための市販教材が手に入るかどうか」という観点で進める傾向があるのではないかと推察できる。言い換えると、「題材ありき」の授業づくりではなく「市販教材ありき」の授業づくりをしている教師が多いのではないかと、ということである。具体的な理由として、実施率が高い題材は、並行して市販教材の使用実施率も高い結果が出ており、この傾向はどの学年の結果にも一

律に表れて見て取れる。このことは、前述の推察の根拠の一つとして、教師が適切な市販教材が手に入る題材を選び好んで授業づくりを進めているとも考えられる。さらに、市販教材の使用に関しては、現場の教師は各家庭の教材費の金銭的負担と選定の優先順位を、常に念頭に置きながら授業づくりに取り組んでいることも後述「質問⑧⑨」の結果から明らかになっている。現場の教師にとって、現実的に市販教材に費やす金銭的負担を減らし、題材実施を円滑に進めるための教材を精選するには、優先順位を付けて最低限必要な市販教材にのみ頼る（依存する）必要がある。つまり教師は、「材料が揃えられない子ども（家庭）」「こなさなければならない多くの題材」を解決するために、市販教材のカタログを見比べながら、教育計画を立てている可能性も否めないということである。この点については、さらなる詳細な追跡調査を要するが、題材実施と市販教材使用の関係性を表す一つの傾向として捉えることができると考える。

3.「質問③」市販教材を使用したことによる教員の主観的效果の有無

「質問③」の主観的效果とは、実際にその市販教材を使用して教育効果が上がったと感じたか、を教師が主観的に捉えて回答したものである。「主観的效果」としたのは、教師が考える教育効果の向上というのは、一概には定義できないからである。市販教材使用による教育の効果には、子どもの「関心・意欲の向上」「発想・構想の手掛かり」「創造的な技能の効率的な習得」といった図画工作科の目標や評価に関する内容から、「授業および準備時間の短縮」「材料・用具の調達、準備の簡略化・効率化」「材料費の軽減」「図画工作を専門としない教師でも授業づくりがし易いこと」等、教師側の授業構築・運営に関する内容まで、様々な要素が想定される。そのため、敢えて本調査では、その定義を示さず、回答者である教師にその捉えを委ね、個々の教師にとって教育効果が上がったと感じたものを全てを対象とした。

「質問③」【効果あり】に着目すると、全学年を通して、市販教材を使用したほぼ全ての題材で「教育的効果が上がった」と教師が感じていることが明らかとなった（【表2】参照）。特筆すべきこととして、5年生「5心の形（立）」「7光のハーモニー（造）」3年生「4切ってつないで大へんしん（造）」の三題材以外の全ての題材で効果率70%以上の回答を得ている点は注目し得る。これは、教師が市販教材を使った結果に

高い割合で満足度を得ているということであり、想定されるデメリットを上回り、教育効果の向上が感じられたことの表れといえる。反対に、質問③【効果なし】については、全学年中、八題材について教育の非効果が見られた。この結果に関しては、回答者への詳細な理由調査が必要であると考え、市販教材の使用自体に必然性がなかったこと（市販教材に頼らなくても十分に授業展開のしやすい題材であった等）や、使用した市販教材自体に問題（セット内容や構造・材料構成や説明書等の不具合や不備）があったことなどが想定されるので、十分な追跡調査が必要であろう。

4.〔質問④〕質問②回答以外の題材への市販教材使用の期待値

この回答は、調査の中で最も回答数の少なかった項目である。

前述の〔質問③〕で得られた結果のように、現場の図画工作科担当教師は市販教材の使用に対する満足度は非常に高いことが明らかになっている。それ故に、〔質問④〕の市販教材に寄せる期待値について、調査前の予測では、ある程度高値になるのではないかと想定された。しかし、本調査では予想に反して、全体的に期待値が低い結果となった。このことから、市販教材に対して、現場の教師は現状に満足をしているものの、他の題材まで市販教材使用を広げようという意識にまでは達していないということが分かった。市販教材の使用は、現状の学校教育の現場では、図画工作科担当教師の一存だけで決定することはできず、そこには前述の教材費の個人負担の問題や補助教材の適切な使用への配慮や届け出・承認といった市販教材採択の問題等の解決が避けられない。また、教師特有の心理として、多くの授業を市販教材といった便利アイテムに頼ることへの潜在的な抵抗感を示すといった心理的・心情的な問題が期待値を下げる要因として考えられる。回答数は少ないが、それぞれの回答者の期待理由について、〔質問③〕同様に、詳細な追跡調査の必要性を感じる結果である。

5.〔質問⑤〕市販教材使用に係る費用と〔質問⑥〕質問⑤の個人負担額

ここまで繰り返して述べているように、市販教材使用で、現場の教師が採択の際に念頭に置くことは、使用に係る費用と負担者の問題である。〔質問⑤〕〔質問⑥〕で明らかになった結果が【表3】である。

〔質問⑤〕の1年間の市販教材に費やす個人負担額

【表3】市販教材購入費に関する調査結果

〔質問⑤〕									
学年	ア:0円 ～199円	イ:200円 ～399円	ウ:400円 ～599円	エ:600円 ～799円	オ:800円 ～999円	カ:1000円 ～1199円	キ:1200円 ～1399円	ク:1400円 以上	
全学年	6	7	6	12	25	20	14	22	112
	5.4%	6.3%	5.4%	10.7%	22.3%	17.9%	12.5%	19.6%	無回答6

〔質問⑥〕					
学年	ア:全額	イ:0円 ～499円	ウ:500円 ～999円	エ:1000円 ～1499円	オ:1500円 以上
全学年	38	6	29	25	13
	34.2%	5.4%	26.1%	22.5%	11.7%

の結果では、「オ：800円～999円」の範囲が22.3%と最も多く、年間約1000円以内に個人負担を抑えようと教師が意識している様子が伺われる。しかし、2番目に多い結果として「ク：1400円以上」が19.6%と約2割もの学校現場で高額な個人負担を実施している状況が明らかになっている。さらに、〔質問⑥〕の「イ：0円～499円」の結果がわずか5.4%であることから、図画工作科の授業づくりにおいて、「個人や家庭が金銭的負担をして市販教材を購入することは、学校現場ではもはや当たり前前の状況である」と言っても過言ではない。今後一層多様化するであろう子ども達の家環境や生活環境を考えると、図画工作科教材に関わる材料費について公費負担も視野に入れて検討していくことは、教育行政が真剣に向き合って考えていかなければならない新たな問題であるといえるだろう。

6.〔質問⑦〕〔質問⑧〕市販教材使用のメリット及びデメリット（自由記述）

〔質問⑦〕〔質問⑧〕は、自由記述による回答のため、本研究では、テキストマイニングの手法を用いてそれを処理・整理し、考察の手がかりとした。筆者は、言語データ分析の専門家ではないので、本調査ではこの手法を試行的に用いるために、誰にでも簡単に使える株式会社ユーザーローカル（User Local, Inc.）のフリーソフトウェアのテキストマイニングツール¹¹⁾を使用した。このツールはアンケートの自由回答や記述データなどのテキスト情報を自然言語処理の技術を使って解析し、頻出語や特徴語を抽出することができる。（言語データ分析やテキストマイニングの手法を本調査に対して用いる是非を論じるだけで、もう一つの論考になりそうなので、本稿では触れないが、本研究では〔質問①～⑥〕の数値の裏に隠れる教師の本意や「生の声」が自由記述の回答に込められていると考え、処理・考察を試みた。）

【表4】は〔質問⑦〕の自由記述回答の一部を列記したものである。この全文を対象テキストとして分析にかけた結果が【資料1】である。同様に、【表5】は〔質問⑧〕の自由記述回答の一部を列記したものであり、分析に掛けた結果が【資料2】である。

〔質問⑦〕のテキストマイニングの結果、共起回数の多い単語の組み合わせとして、「家庭・材料」（共起回数28）、「できる・材料」（同25）、「できる・家庭」（同17）、「揃う・材料」（同17）の順となっている。また、出現回数の多い単語は名詞「材料」（出現回数78）、動詞「する」（同82）「できる」（同61）、形容詞「やすい」（同55）である。この結果から、教師が考える市販教材使用のメリットとして、「家庭で揃えるべき材料が市販教材使用によって簡単に揃えることができる、揃えやすい」といった意見が多いと解釈することができる。この解釈の裏返しとして、子ども達の家庭環境が多様化する昨今の教育現場においては、一昔前であれば当たり前のように家庭で揃えて持参することができた身の回りの材料（例えば、空き箱やプラスチック容器、飾りに使える毛糸や紐など）でさえも、容易に揃えることができない事情が推察できる。実際に、筆者の教育現場での経験からも、最近では、非常に簡単な材料でさえも、家庭で準備することができず、事前に保護者に協力を依頼したり、何ヶ月も前から、準備のための周知徹底をしなければ、学級全員が学習材料を揃えることができない実態があることを切実に感じていた。市販教材使用に教師が依存しなければならない要因として、一つには子ども達の置かれた家庭環境の変化が、図画工作科の重要な構成要素の一つである材料準備といった授業づくりのための基本的な条件にまで影響を与えているといっても過言ではないだろう。

また、次に共起回数の多い単語の組み合わせとして、「やすい・指導」（共起回数13）、「できる・作品」（同12）、「やすい・評価」（同11）、「できる・子ども」（同11）の結果から、「教師が指導しやすい。子どもが（ある程度の）作品をつくりあげることができる。」といった意見が多いと解釈することができる。この点は、教師側の図画工作科の授業への取り組みや力量の是非が問われるところであるが、図画工作科の学習が作品主義の傾向にあると捉えることもできる。そのため、本来の図画工作科の学習で尊重しなければならない表現活動の「過程」よりも、「結果」である「作品の出来・不出来」に教師の意識が向いてしまっていることの表れであるといえる。また、図画工作科の授

業を担当する教師がその由々しき傾向に気付かず市販教材使用の「メリット」として回答している点は、今後、市販教材を使用した図画工作科の授業づくりの教師の課題として考えていかなければならない問題であるといえよう。

次に〔質問⑧〕のテキストマイニングの結果、共起回数の多い単語の組み合わせとして、「しまう・作品」（共起回数13）、「負担・金銭」（同11）、「似る・作品」（同9）「発想・自由」（同8）の順となっている。また、出現回数の多い単語は名詞「作品」（出現回数49）、動詞「なる」（同33）「する」（同29）「しまう」（同25）、形容詞「にくい」（同14）であるという結果から、教師が考える市販教材使用のデメリットとして、「作品が似てしまう。金銭の負担になる。自由な発想がしにくい、なりにくい」といった意見が多いと解釈することができる。この解釈には、前述のメリットとして、市販教材使用によって「（ある程度の）作品ができる」ことのよさを教師が歓迎している反面、「作品が似る」「作品に発想がない」といった、同一材料での作品づくりであれば必然的に表れてしかるべき要素を子どもに求めている教師の矛盾した意識が伺える。元来、子ども達が題材を取り組むにあたって、材料準備が困難なために一律の材料が揃っている市販教材を使用しておきながら、同じような作品を作るのは「発想がない」というのは、子ども達に対する教師の理不尽な要求と捉えられても仕方がないのではないか。教師が指導上子ども達に投げ掛けるべき発想・構想への工夫や手立てをなおざりにして、市販教材に対して必要以上に依存している結果を表しているといえよう。言い換えれば、この結果から、教師が市販教材を一つの題材を最初から最後まで教師の展開の工夫や手立てなくしても完結することのできる便利アイテムとして捉えているとも考えられる。

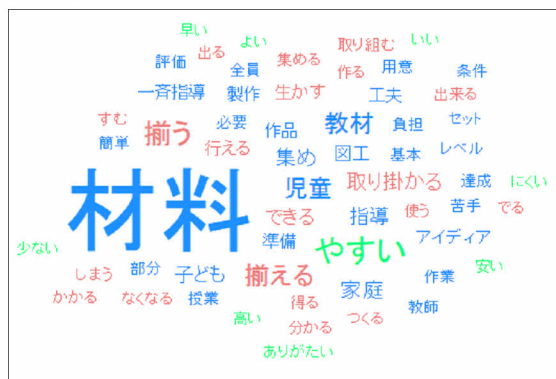
図画工作科の授業づくりはあくまでも、教師の教材研究が基本にあり、市販教材は教師の教材研究を支える補助教材であることの認識をあらためてする必要があるといえるだろう。また、金銭面での問題は、前述で繰り返し述べてきたが、金銭を負担しただけの対価として、市販教材に指導の全てを依存できるといった絶対的な効果を教師が期待していたら、教師は図画工作科の授業づくりについて、認識をあらためなければならない結果ではないだろうか。

【表4】〔質問⑦〕市販教材使用のメリットに関する自由記述回答の一部(原文)

- ・市販教材を使うと同じスタートラインに立つて、指導がしやすい。
- ・教材集めのための指導が楽である。
- ・同じ素材なので、指導がしやすい。
- ・必要な材料が揃っているので、家庭での負担が少ない。
- ・図工が苦手な子どもでも取り組みやすい。
- ・材料がみんな揃っている。
- ・教師の力量に左右されずに同じような指導ができる。
- ・基本部分を使えば、図工が苦手な子どもでも形にすることができ、達成感を得られる。工夫したい子はアイディアを生かしてレベルの高い作品ができる。
- ・指導がしやすい。
- ・決められた時間内に製作することができる。
- ・組立てが苦手な子ども作りやすい。
- ・材料準備の時間を短縮できること。
- ・学習内容に沿った作品の製作に無駄なく取り組みること。
- ・つくりやすく、それらしい作品になる。
- ・セット教材が「やってみよう」という意欲を与える。
- ・個人が材料を揃えなくてもよい。
- ・指導しやすい。
- ・図工が苦手な子どもでもつくり出せる。
- ・準備が楽になる。
- ・各自で用意するのが困難な材料を揃えられる。
- ・教師が教材を準備する時間が短縮できる。
- ・作業の手順を一律に説明できる。
- ・材料のばらつきが生じない。
- ・子どもがすぐに作業に取りかかれる。(時間を有効に使える)
- ・子ども達が家で材料を用意しなくてもよい。
- ・材料のばらつきがない。
- ・必要な材料が全てセットで用意されているため、便利である。
- ・必要なものが簡単に揃う。
- ・同じ材料が揃えられる。
- ・子どもの忘れ物の心配がいない。
- ・説明書が親切にされていて、これを子どもが読みこなして製作できることはよいことだと思う。
- ・準備が簡単である。
- ・材料に無駄がない。
- ・材料が簡単に手に入る。
- ・全員同じ材料なので、指導がしやすい。
- ・材料を集めることができない児童(家庭)にとっても都合がよい。
- ・説明書付きで、何をすればよいかわかりやすい。
- ・材料が揃っているため、用意する手間が省ける。
- ・図工の苦手な児童でも取り組みやすい。
- ・基本部分を使えば、図工が苦手な子どもでも形にすることができ、達成感を得られる。工夫したい子はアイディアを生かしてレベルの高い作品ができる。
- ・一つの作品づくりにかけることのできる時間に限りがあるため、時間短縮となる。
- ・発想の苦手な子どもにとっても、基本のものがあると取り掛かりやすく、作品完成への手助けとなる。
- ・家庭により、材料準備の格差が出てしまう。
- ・見本の写真があり、苦手な子どもでもその作品ができる。
- ・全員が同じものを使うことで、材料によって作品の仕上がり具合が変わるということがなくなる。
- ・児童が家庭で材料を揃える必要がなく、どの子どももすぐに製作に取り掛かることができる。
- ・家庭の状況などに関係なく材料が揃う。
- ・つくりやすく加工されているものもあり、授業時間内で仕上げるができる。
- ・準備に時間がかからない。
- ・図工指導が苦手な教員でも指導しやすい。
- ・必要なものがすぐ揃う。
- ・子どもが使いやすく、ケガが少ない。
- ・材料を集められない、揃えられない家庭もあるので、一斉に授業が始められるところがよい。
- ・材料集めは家庭の協力が必要だが、家庭の事情が多様化しているので、市販教材を使う方が、話が早く、材料が揃う。
- ・材料の準備に時間がいない。
- ・下位児童であってもそれなりの作品に仕上がる。
- ・イメージがつかみやすい。
- ・作りやすい。
- ・家庭で材料を揃えることができない児童も製作することができる。
- ・家庭で材料を集める手間が省ける。
- ・材料が同条件なので、材料による個人差が少ない。
- ・材料が揃っているため、物理的な差が出なく、評価がしやすい。
- ・セット教材だと、子どものやる気が出る。
- ・作業工程がわかりやすい。
- ・皆が同じところからスタートできる。(家庭で材料集めのできない子もあり、材料がただで意欲もなくなってしまう。)
- ・少しずついろいろな材料がセットされており、家庭では準備できないものも使うことができる。
- ・どんな子も作品を作り上げることができる。(作り方がわかりやすい。)
- ・基本部分を使えば、図工が苦手な子どもでも形にすることができ、達成感を得られる。工夫したい子はアイディアを生かしてレベルの高い作品ができる。
- ・効率よく作業ができる。
- ・評価がしやすい。
- ・どの子どもも材料の環境が揃うので、同じ条件で製作ができる。
- ・家庭の状況によっては材料集めができない場合があり、どの子にも教材が均等に用意することができる。
- ・基本となる材料があるので、子どもが製作のイメージを持ちやすい。
- ・準備の手間の削減ができる。
- ・家庭での材料集めをしなくていいので、授業に取り組みやすい。
- ・どの子どもの簡単につくれる。
- ・授業準備費や無駄な時間が減り、教材研究により時間がかけられる。
- ・基本的な材料が揃っていることで、取り組みやすい。
- ・誰でも同じ材料の量で製作できる。
- ・材料集めの負担がなくていい。
- ・材料が一斉に揃うので指導がしやすい。
- ・説明しやすい。
- ・材料が揃っていて取り掛かりやすい。
- ・苦学意識のある児童も自分で作り上げる喜びを感じやすい。
- ・見栄えのよい作品に仕上がる。
- ・教材が統一されているので、一斉指導がしやすい。
- ・家庭では揃わない材料が揃えられる。
- ・子どもが材料を揃えると、かえって高くつく。
- ・材料の規格が同じだと、指導がしやすい。
- ・個人で用意しにくいものが揃う。
- ・材料を家庭から持ってこれない児童も同じ材料で作ることができる。
- ・必要な材料が揃っていること。
- ・材料の量が適していて、無駄に残らないので家庭で(材料を)揃えてもらうよりも負担が少ない。足りなければ自由に加えることができる。
- ・同じ材料だと指導がしやすい。
- ・全員が同じものを使うので、指示がしやすい。
- ・どの児童も同じ条件で授業を行える。

品詞	単語	出現回数
形容詞	やすい	55
形容詞	よい	12
形容詞	ない	11
形容詞	高い	7
形容詞	少ない	7

スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示している。
色が品詞に対応している。



スコア
単語ごとに表示されている「スコア」の大きさは、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表している。

通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高いが、「言う」や「思う」など、どのような種類の文書にも現れやすいような単語についてはスコアが低めになる。

【表5】【質問⑧】市販教材使用のデメリットに関する自由記述回答の一部(原文)

- ・最近の市販教材は技能不足でも簡単にできてしまうものがあり、技能を高めることができない。
- ・偏った作品、似たり寄ったりの作品になりやすい。
- ・代金に見合うだけの作品を作らせたいが、難しい。
- ・自分で事前に構想し、それに応じた材料を選んだり、用意したりする経験ができない。
- ・いろいろな材料をもってきて、自由に発想しにくい。
- ・材料が同じなので、作品の傾向が似てしまう。
- ・できる子、できない子の差が明らかになってしまう。
- ・意欲ある児童に材料を集めることがささげにくくなってしまう。
- ・作品の工夫がしにくい。
- ・材料による制約を受けてしまう。
- ・作品例のカラー写真を見るせいで、作品のアイディアが乏しい。
- ・身近材をうまく利用しようとする力が育たない。
- ・使わない材料や名札などが余ってしまうことがある。
- ・子どもの創造力にふくらみが出ない。
- ・金銭負担がかかる。
- ・同じ材料を使っている作品づくりになるので、工夫がしにくい。
- ・身の回りの物で工夫するという発想に結びつきにくい。
- ・お金がかかる。
- ・年によって金額が変わってしまう。
- ・内容によってコストパフォーマンスが悪い。
- ・子どもの発想、意欲、関心が評価しにくい。
- ・似たような作品になってしまうこと。
- ・子どもの創意工夫を育てづらい。
- ・いろいろな素材の面白さを味わわせづらい。
- ・同じような作品ができる。
- ・創造性が育たない。
- ・同じような作品ができる。(サイズや工夫の面で)
- ・アイディア、創造性があまり生かされない。
- ・材料集めも造形活動ではとても大事な勉強だと思う。
- ・必要以上に材料があるのももったいない。
- ・費用がかかる。
- ・子どもの関心を見る上で、家から材料を集めてくるなど、本当の意欲を見ることができない。
- ・市販教材に頼る題材が多く、発想・構想の能力があまり向上しない。もっと身の回りにある材料をうまく活用したい。
- ・同じような作品になってしまう。
- ・アイディアが広がらない。
- ・保護者の金銭的負担。
- ・作品が似たものになりやすい。
- ・子どもの発想をせばめてしまう。
- ・金銭負担がかかる。
- ・創造性が養われない。
- ・子どもの思いがあっても、説明書に(作業行程に)縛られた指導になってしまう。
- ・一人一人の工夫があまり感じられない。
- ・材料が整った中で造形活動に取り組むことに疑問を感じる。(材料集めも大事な造形活動の一部では)
- ・発想や構想するのが苦手な子は、他の子と同じような作品が出来上がる。
- ・費用(個人負担)がかかる。
- ・負担金がかかる。
- ・同じような作品になる。
- ・作品が見本と同じようになる。
- ・みんな同じような作品になる。
- ・費用がかかる。
- ・形式的に同じようなものが出来上がる。
- ・児童の自由な発想が生かせない。
- ・保護者負担がふえる。
- ・作品の個性が損なわれがちになる。
- ・サイズやアイディアが画一的になりやすい。
- ・子ども達の創造力が欠ける。
- ・個性が見られない作品になってしまう。
- ・似たような作品になりやすい。
- ・徴収金が高い。
- ・身近な材料の場合はもったいない。
- ・画一化されていて創意工夫する部分が限定される。
- ・自由度が制限されること。
- ・個人負担が大きい。
- ・作品への創造性に欠ける。
- ・工夫できる幅が狭い。
- ・保護者の負担(金銭的)が増える。
- ・保護者が児童と一緒に材料を探す機会が減る。
- ・お金がかかってしまうこと。
- ・発想が限定されてしまう場合がある。
- ・金銭負担がかかる。
- ・創造性が欠ける。
- ・出来上がった作品に個性が見られない。
- ・材料費が高くなる。
- ・同じような作品が多くなる。
- ・作品のオリジナリティの幅をせばめ、自由な発想を制限してしまう可能性が高い。
- ・あまりに(説明や作りが)親切すぎている。児童にやらせるべき所まで出来上がっているの、ますます何もできない子が増える。
- ・個人の金銭面での負担が大きくなる。
- ・作る、描く幅(可能性)が限られてしまう。
- ・創意工夫の幅がせまくなる。
- ・発想の自由が制限される。
- ・準備されすぎて、子どもの力で考える力が育ちにくい。
- ・いろいろなパターンの作品ができるように、大きさ、サイズ、色を揃えすぎないでほしい。
- ・安価にしてほしい。
- ・似たような作品ができ、評価がしにくい。
- ・創造性が育ちにくい。
- ・作品の個性が出にくい。
- ・みな同じような作品になってしまう。
- ・作品の自由な発想を妨げる。
- ・同じような作品になりがち。
- ・同じような作品が出来上がることがある。
- ・購入費がかかる。
- ・決まった材料なので、想像力が狭まる。
- ・そのセットで作れる基本の形が一つしかない場合、皆が同じような作品になってしまうことがある。

7.〔質問⑨〕市販教材に期待すること(自由記述)

【資料3】は、〔質問⑨〕のテキストマイニングの結果である。

この結果は基本的に〔質問⑧〕のデメリットを反映して、教師が市販教材に求めることを表しているため、「発想」「工夫」「低価格・安価」といったキーワードが中心となり、前述〔質問⑧〕の内容に重なる部分が多い。これらのキーワードの中でもスコアが高く、特徴的な単語として「持ち帰る」(スコア 12.00)「飾る」(同 2.49)が表しているように、図画工作科の授業づくりとしての関連用語だけでなく、子ども達の小学校生活全般に関わる回答が多いことが注目に値する。図画工作科の学習を通して、子ども達が取り組んだ教材(作品)は、大切に「持ち帰らせ」、素敵に「飾らせたい」という、教師としての思いや願いが、その言葉にも込められている。また、こういった視点は、今後も、図画工作科の授業づくりや教材の価値を高めるために大切にしていきたい教師の姿勢として評価できる。

8.〔質問⑩〕図画工作科における教育現場の問題点(自由記述)

【資料4】は、〔質問⑩〕のテキストマイニングの結果である。

〔質問⑩〕は、特に市販教材に着目した質問内容ではなく、回答の結果にも、市販教材との関連性が認められるわけではない。現場の図画工作科担当教師の生の声を拾い出すことで、より学校現場の実態や問題点を洗い出すことを目的に質問項目とした。その結果、回答の方向性については多岐にわたっている。この中で、注目すべき点は、〔質問⑦⑧〕同様、教師は子どもの「作品」が「できる」ことに意識が集中していることである。現場の教師は、図画工作科を取り巻く「指導」の問題、「評価」の問題、「教育課程」の問題、「技能」の問題等を抱えていることが単語の出現頻度やスコアの結果から明らかだが、いずれの問題においても、その帰着点に、子どもが図画工作科の学習を通して「作品」ができることを願っていると解釈することができるであろう。また、授業づくりを支える「場所」「道具」「保管」「スペース」といった環境面の充実を求める声が見られることも特筆すべき点である。

【資料3】〔質問⑨〕市販教材に期待することに関するテキストマイニングの結果

■名詞	スコア	出現頻度	■動詞	スコア	出現頻度	■形容詞	スコア	出現頻度
教材	57.08	31	できる	0.68	27	よい	0.85	18
材料	30.65	21	飾る	2.49	7	ほしい	1.49	17
子ども	3.54	14	使う	0.09	7	やすい	1.08	13
工夫	22.19	14	入る	0.09	7	多い	0.03	3
作品	1.03	12	持ち帰る	12.00	6	細かい	0.67	3
低価格	8.80	8	作る	0.04	4	にくい	0.17	3
セット	0.33	8	下げる	0.35	3	難しい	0.08	3
安価	7.00	7	掛ける	0.15	2	高い	0.02	2
発想	1.89	7	使える	0.03	2	良い	0.01	2
作業	0.28	6	すぎる	0.01	2	おもしろい	0.03	1
値段	1.08	6	増やす	0.05	2	いい	0.00	1
準備	0.35	5	持つ	0.01	2	楽しい	0.00	1
市販	3.19	5	考える	0.01	2	安い	0.01	1
家庭	0.83	5	合わせる	0.09	2	広い	0.04	1
内容	0.17	4	思う	0.00	2	小さい	0.02	1
レベル	0.12	4	たせる	1.40	2	長い	0.01	1
いろいろ	0.89	4	飾れる	1.40	2	ほどよい	1.00	1
必要	0.08	4	出す	0.01	2	---	---	---
バリエーション	2.42	3	広がる	0.11	2	---	---	---
製作	0.53	3	やめる	0.02	2	---	---	---
低学年	2.10	3	壊れる	0.07	2	---	---	---
図工	2.10	3	出来上がる	0.41	2	---	---	---
場合	0.08	3	広げる	0.06	1	---	---	---
素材	0.27	3	もたせる	0.70	1	---	---	---
個性	0.97	3	作りかえる	0.70	1	---	---	---
負担	0.21	2	組み立てる	0.58	1	---	---	---
想像	0.08	2	抑える	0.05	1	---	---	---
自由度	1.47	2	おく	0.00	1	---	---	---
完成	0.06	2	とる	0.00	1	---	---	---
お金	0.03	2	ふくらむ	0.58	1	---	---	---

【資料4】〔質問⑩〕図画工作における教育現場の問題点に関するテキストマイニングの結果

■名詞	スコア	出現頻度	■動詞	スコア	出現頻度	■形容詞	スコア	出現頻度
作品	9.76	38	できる	0.58	25	少ない	1.74	13
子ども	4.57	16	しまう	0.17	10	多い	0.43	12
場所	1.76	14	いく	0.08	7	難しい	1.09	11
指導	8.40	13	捉える	3.09	6	早い	0.12	6
題材	27.14	13	作る	0.06	5	ほしい	0.19	6
不足	4.86	12	使う	0.05	5	遅い	0.37	6
作業	1.09	12	持つ	0.07	5	よい	0.07	5
教員	7.76	9	すぎる	0.02	4	にくい	0.45	5
授業	0.76	8	出る	0.02	4	狭い	0.96	4
評価	0.67	8	教える	0.05	3	乏しい	2.00	2
必要	0.31	8	とる	0.04	3	づらい	0.05	1
製作	3.45	8	つくる	0.14	3	大きい	0.01	1
材料	5.90	8	おこなう	3.00	3	古い	0.03	1
教材	4.64	7	足りる	0.06	2	幅広い	0.42	1
完成	0.73	7	知る	0.24	2	広い	0.04	1
教育課程	4.90	7	聞く	0.01	2	うまい	0.01	1
支援	0.48	7	使える	0.03	2	---	---	---
課題	0.70	6	迫る	0.17	2	---	---	---
スペース	1.86	6	踊る	0.22	2	---	---	---
図工	4.20	6	生かす	0.29	2	---	---	---
展示	0.96	6	楽しむ	0.03	2	---	---	---
家庭	0.83	5	いける	0.02	2	---	---	---
道具	2.51	5	描く	0.02	2	---	---	---
学校	0.16	5	分かる	0.02	2	---	---	---
教室	0.34	4	思う	0.00	2	---	---	---
保管	2.95	4	つける	0.03	2	---	---	---
基礎	1.10	4	困る	0.05	2	---	---	---
技能	6.34	4	おる	0.01	2	---	---	---
づくり	1.55	4	かかる	0.03	2	---	---	---
知識	0.34	4	壊す	0.04	1	---	---	---

IV. 研究のまとめと今後の課題

図画工作科の授業における市販教材の使用の実態について調査を行い、学年・題材・領域構成の視点から整理し、自由記述の分析から考察した結果、次の点が見明らかになった。

- (1) 教育課程に設定された題材の実施率には高学年ほど偏りが見られ、その偏りは市販教材使用の実施率と一定の関連性が見られるということ。
- (2) 市販教材への依存性が高い領域は「立体」「工作」「版画」であり、「絵」「鑑賞」の領域は依存性が低いということ。
- (3) 教師は、市販教材を使用することで、ほとんどの題材で高い満足度を得ているということ。しかし、市販教材使用には、費用の個人負担の問題が今後の課題として挙げられるということ。
- (4) 市販教材使用のメリットとして、家庭で揃えるべき材料が揃えやすく、子ども達の材料が一律に揃った状態で授業にあたるができるということ。また、市販教材を使用することで、教師が図画工作の指導がしやすく、苦手な子どもでもある

程度の作品をつくりあげることができるということ。反面、デメリットとして、市販教材を使用することで自由な発想がしにくく、作品が似てしまうこと、金銭の負担になるということ。これらのメリット・デメリットは、図画工作科の授業づくりにおいて、必然的に表れる要素であり、今後の市販教材を通した指導の改善に生かす必要があるということ。

以上のことから、小学校図画工作科における市販教材には一定の有用性を認めることができたと考える。また、現場の教師の市販教材に対する高い依存性が認められ、その使用方法については、今後の課題を見出すことができた。特に発想・構想の工夫が生かされる市販教材の開発の必要性があり、さらなる調査と研究が求められると考える。本研究で得られた知見をもとに、引き続き、市販教材の実態解明を行い、教育現場において、より一層有用性の高い教材の開発を進めていきたいと考える。

注・引用文献

年11月25日)

- 1) 辻泰秀 監修・編著『造形教育の教材と授業づくり』
日本文教出版, 2012, p.20
- 2) 株式会社大和科学教材研究所『生活科・理科・図
工教材カタログ』大和科学教材研究所, 2016,
p.160 <http://www.daiwa-e.com/contents/catalog/160.php> (確認日: 2016 年 11 月 25 日)
- 3) 前掲1), p.7
- 4) 安東茂樹『中学校技術科教育における市販教材の
有用性に関する調査研究』日本教材学会年報, 1998,
pp.111-113
- 5) 長南裕志・中村祐治『市販教材からみた現場の実
態』日本教材学会年報, 1999, pp.133-135
- 6) この背景には, 学校や地区の慣例や慣習によって,
補助教材の一つである市販教材についての取り扱い
が教育現場で曖昧にされていることへの懸念がある。
市販教材の使用については, 学校・学年単位で担任・
授業者が十分に検討を重ね, 学校〔校長〕を通じて
教育委員会に届け出させ, 又は教育委員会の承認を
受けさせる必要がある。(『地方教育行政の組織及
び運営に関する法律第三十三条第二項(学校等の管
理)〔昭和三十一年六月三十日法律第百六十二号〕』
最終改正: 平成二七年七月一五日法律第五六号)に
もかかわらず, 現場の実態として, 市販教材を学校
消耗品や材料の一部とし, 補助教材として取り扱わ
ずに使用している実態が未だ見受けられるからであ
る。こういった事情を鑑み, 本研究では, 補助教材
の選定に関して透明性が確認され, 地区や地域の実
情に研究調査上, 差異が見られないと想定される一
定の教育行政地区を調査対象とした。
- 7) テキストマイニングとは, 定型化されていない文
章の集まりを自然言語解析の手法を使って単語やフ
レーズに分割し, それらの出現頻度や相関関係を分
析して有用な情報を抽出する手法やシステムのこと
である。マイニング(mining)とは「発掘」とい
う意味で, テキストの山から価値ある情報を掘り出
す, といった意味が込められている。<http://e-words.jp/w/テキストマイニング.html> (確認日:
2016 年 11 月 25 日)
- 8) 愛日地方教育事務協議会『平成 27 年度版小学校
教育課程』2015, p.3
- 9) 前掲8), p.4
- 10) 多羅間拓也『「造形遊び」とインスレーション』
聖母女学院短期大学研究紀要 40 号, 2011, p.18
- 11) <http://textmining.userlocal.jp/> (確認日: 2016

